

医師・コメディカル統合的人材育成拠点形成

実施機関：神戸大学（総括責任者：福田 秀樹）

実施期間：平成 21～25 年度

プロジェクトの概要

神戸大学大学院医学研究科を中心として兵庫県等の協力のもと、地域医療に従事するコメディカルが容易に高度専門教育を受けることができる地域再生人材育成拠点の形成を計画する。地域医療および災害医療の現場で機能的スキルミクスを実現できるエキスパート・コメディカルを育成する。本育成プログラムの修了者は、各地域医療機関において地域・災害医療のリーダーとしての役割を果たすことが期待され、県内全体をフィールドとした循環型の配置・育成システムを構築することができる。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
A	a	a	a	a	s	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

本プロジェクトは、コメディカル（医療専門職）に対して機能的スキルミクスを可能とする高度専門教育を包括的に実施するものであり、近年医療現場で不可欠とされる適正なチーム医療を推進する視点から重要である。自治体と大学とが強力な連携の下、コメディカル人材の育成が進められ、兵庫県下の地域間医療格差の低減に貢献していることは評価できる。継続的な取組の拠点及び体制が構築されたことから、今後は、医療のチームワークを牽引する各職種の医療人が数多く育成されること、さらにそれらの人材が兵庫県下の過疎地域で活躍して地域医療格差の低減に一層寄与することを期待する。

- ・**目標達成度**：5つのコースで99名を養成して養成目標人数80名を大きく上回ったこと、さらに兵庫県と連携して、神戸大学医学部附属地域医療活性化センターを設立し、エキスパートメディカルスタッフ育成センターを設置したことは評価できる。今後とも、医療のチームワークを牽引する各職種の医療人が数多く育成されることを期待する。
- ・**人材養成手法の妥当性**：5つの医療コースを設けて、それぞれの領域のエキスパートメディカルスタッフを育成するという手法は評価できる。また、修了者及び上司へのアンケート調査や外部評価委員会の設置等による地域ニーズの反映や手法の改善も評価できる。今後は、地域医療を担うためのスキルミクスのあり方を明確にするなどの改善を期待する。
- ・**実施体制・自治体等との連携**：兵庫県が神戸大学と県立病院との間で相互連携協力協定を締結させるなど、受講生募集、広報活動、運営等において密な連携があったことは、さらに地域医療活性化センター設立支援を含めて、評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：それぞれのコースの特徴を生かした活動が実施されているばかりではなく、異なる職種の医療専門職者が共同で取り組む IPW (Interprofessional Work) 教育等の効果的な実施も見られること、さらには、東日本大震災時に災害支援チームの一員としての協力貢献したことは評価できる。今後は、災害救急医療・周産期医療の両コースの取組に改善を期待する。

・**継続性・発展性**の見通し：本事業を継承するため大学と県が共に連携し、神戸大学医学部附属地域医療活性化センター内にエキスパートメディカルスタッフ育成センターを設置し、エキスパートメディカルスタッフ育成プログラムとして発展的に新規継続していく計画であることは高く評価できる。今後は、医療制度の改革等、外からの応援もなされることを期待する。

・**中間評価の反映**：広報活動を強化して養成人員を増やすことや地域・災害医療のリーダーとして真の実力を備えた人材を養成することという指摘に対し、積極的な広報活動や修了者への継続的なサポートを通して対応してきたことは評価できる。